

構想から10年 iRIC Journey

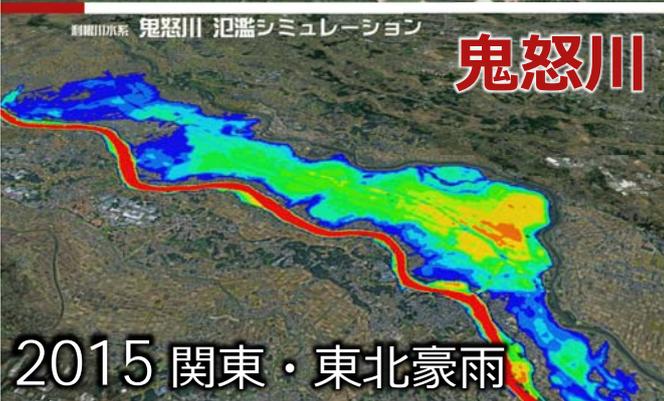
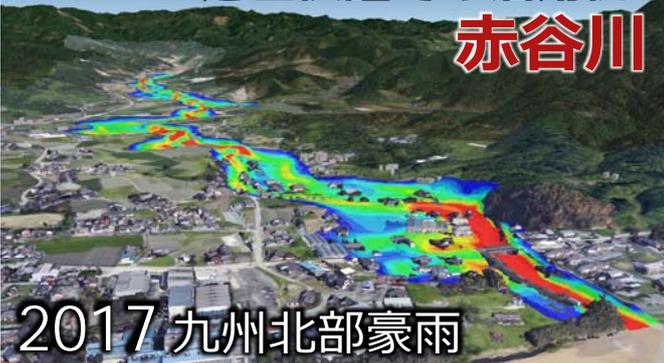
THE 10th Anniv ersary

研究者が開発した最先端の計算モデルを、操作性のよい無料のソフトウェアとして提供することで誰でも河川の流れ・河床変動が解析出来るようにしたいとの思いで立ち上げたiRIC (international River Interface Cooperative) プロジェクトが構想から10年を迎えました。

これまでユーザを第一に考えたソフトウェア開発、研究者を中心とした開発者とユーザの相互理解を目的とした講習会開催を積極的に行ってきました。結果、全世界で7000人以上もの研究者、技術者、学生らがiRICソフトウェアを利用する状況となり、それら成果は、論文、学会、業務等のあらゆる方面で見ることができるようになってきました。一方で、構想から10年を経過したことで、今後の開発や運営方針に関する課題もいくつか見えてきている状況です。

今回の記念シンポジウム、「iRIC Journey」では、これまでの成果と見えてきた課題をふまえ、今後もiRICがより発展的な活動を継続できるよう、ご来場の皆様とともに様々な議論を行いたいと考えています。

近年の記録的豪雨災害等の 氾濫検証での活用例



シンポジウム会場

北海道大学 フロンティア応用科学研究棟
2階 (鈴木章ホール)

Google Maps



記念パーティー会場

北海道大学構内 エンレイソウ

Google Maps



10周年記念 シンポジウム

13:00~17:00

I iRICの取組み

挨拶：岡部和憲 一般財団法人北海道河川財団 理事長

iRICの軌跡：清水康行 北海道大学工学研究院 教授

II これまでの活用事例

実務現場：北海道開発局、北海道

教育現場：岩崎理樹

国立開発研究法人土木研究所 寒地土木研究所

III 最新版iRICソフトウェア紹介

・ソフトウェア全体：旭一岳 (株) RiverLink

・Nays2DFlood：井上卓也 国立開発研究法人
土木研究所 寒地土木研究所

・NaysCUBE：木村一郎 北海道大学工学研究院 准教授

IV パネルディスカッション ～ iRICの未来～

コーディネーター：竹林洋史 京都大学
防災研究所 准教授

ポスター展示 13:00~17:00

iRICは、災害調査や環境評価、河川地形学に関する研究・調査・計画等、様々な分野で活用されています。会場前特設コーナーにおいて、それらのiRIC活用事例を紹介するポスター展示を行います。